



2026 年 9 月 11 日

各 位

会社名 株式会社はてな
代表者名 代表取締役社長 栗栖 義臣
(コード：3930、東証グロース)
問合せ先 コーポレート本部長 田中 慎樹
(TEL. 03-6434-1286)

2026 年 7 月期通期業績予想と実績値との差異、株主優待引当金繰入額及び特別損失の計上並びに繰延税金資産の取り崩しに関するお知らせ

当社は、2026 年 7 月期決算において、株主優待引当金繰入額及び特別損失の計上並びに繰延税金資産の取り崩しを行いましたのでお知らせいたします。また、2026 年 6 月 12 日に公表いたしました 2026 年 7 月期の通期業績予想値と本日公表の実績値との間に差異が生じたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2026 年 7 月期通期業績予想値と実績値との差異 (2025 年 8 月 1 日～2026 年 7 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	3,640	113	90	△767	△256.50
実績値 (B)	3,647	173	103	△995	△332.80
増減額 (B－A)	7	60	13	△228	—
増減率 (%)	0.2%	53.1%	14.4%	—	—
(ご参考) 前期実績 (2025 年 7 月期)	3,794	339	339	230	77.61

2. 差異の理由

売上高につきましては、概ね想定通りに着地いたしました。

営業費用につきましては、出版社向けマンガビューワ「GigaViewer」の利用媒体増加に伴いインフラ負荷は上がったものの、コスト最適化施策を推進した結果、データセンター利用料が予想を下回ったことに加え、減益予想に合わせた全社的なコスト意識の向上等により、経費全般についても想定を下回る推移となりました。

これらの費用抑制の効果もあり、営業利益及び経常利益は、前回発表予想を上回る結果となりました。さらに、外形標準課税（付加価値割等）の実際の課税標準額が当初見積もりより著しく小さくなったこと等に伴い、事業税等に係る租税公課が想定を大きく下回ったことも利益を押し上げる要因となっております。

一方、当期純利益につきましては、以下の理由により、前回発表予想を下回りました。

- ・株主優待引当金繰入額について

2026 年 4 月 14 日付「記念株主優待に関するお知らせ」で公表いたしました上場 10 周年記念株主優待の実施に伴い、営業外費用として株主優待引当金繰入額 74 百万円を計上いたしました。利用実績の想定等に基づく正確な引当額を見積り、算定した結果、当初の想定を超える計上額となりました。

- ・特別損失の計上について

2026 年 4 月 24 日付「資金流出事案の発生に関するお知らせ」で公表いたしました事案につきまして、当初公表した資金流出被害額 1,179 百万円に、特別調査委員会による調査費用等が加わった結果、通期で 1,221 百万円を資金流出事案に伴う損失として特別損失に計上いたしました。

- ・繰延税金資産の取り崩しについて

当事業年度の業績結果及び翌事業年度以降の業績見通し等を踏まえて繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、2026 年 7 月期末において繰延税金資産 241 百万円の取り崩しを行い、その結果、本第 4 四半期会計期間において税金費用が増加いたしました。

以 上